

子どもたちの生活の場を意識した
「教育環境整備」
～教育環境整備の「ひと的整備」「ものの整備」
「かね的整備」～

士別市立士別南中学校
葛西 賢人

1 はじめに

上川管内公立小中学校事務職員協議会（以下、上事協という）には、約80人の事務職員が所属しています。主な活動としては、年2回の管内研に加え、上川を4つのブロック（名寄・士別・中央・富良野）にわけて、年に6回ほどブロック研修を行っています。

士別ブロックは、士別市・剣淵町・和寒町・幌加内町の1市3町で構成されています。士別市は、人口2万人弱の小さな市ではありますが、1978年（昭和53年）には、全道事務研の開催地となっています。

士別ブロックは「積み上げよう『子どもの生活の場』としての学校づくり ～2009年度から現在までの活動を振り返って～」の表題のもと、2014年度（平成26年度）の全道事務研（網走大会）で提起しました。

◇2014年度（平成26年度）全道事務研（網走大会）の概要◇

【成果】

○ブロック実践のほか、各市町村で設定した「学校事務推進計画」をもとに、計画的に実践を進めることができた。

○市町村教委との連携によって、課題の共有化をはかり、課題解決に向けて前進することができた。

【課題】

- 各市町村におけるブロック実践の『ばらつき』の解消。
- 学校間連携会議の設立。
- 「教育環境整備」の実践研究の積み上げ。

これらの課題を解決するために、士別ブロックでは、2015年度（平成27年度）に、上事協の研修部から提示された「教育環境

整備」の研修テーマをもとに、士別ブロック会員を「ひと的整備」「ものの整備」「かね的整備」に班員分けし、次年度からの本格的な活動に向け、計画立てをしました。そして、2016年度（平成28年度）からは、市町村を越えたグループ研修にとりこんでいます。

また、幌加内町では、2016年度（平成28年度）の10月に、学校間連携会議を設立することに成功しました。課題解決のための成果がみられるようになってきています。

2 上事協のとりくみ

士別ブロックの母体となっている上事協では、2013年度（平成25年度）より「教育環境整備」を研修テーマに掲げ、「ひと的整備」「ものの整備」「かね的整備」を視点にとりくみ、2014年度（平成26年度）から2016年度（平成28年度）の3年間については、具体的に「ひと的整備」に重点を置き、研修を進めてきました。

◇ひと的整備

自分づくり・ネットワークづくりなど、学校をとりまく人々との関係を築き、組織化・社会化していく活動。

◇ものの整備

施設整備・備品・物的環境整備など、子どもにとっての安心・安全・快適さを追求する活動。

◇かね的整備

予算要望活動・学校財政のサイクルなど、様々な人々の声を反映した学校財務活動。

教育環境整備5年目の2017年度（平成29年度）からは、「ものの整備」「かね的整備」に重点をシフトし、さらなる研修を深めています。

3 士別ブロックのとりくみ

(1) グループ研修

士別ブロックでは、上事協の研修のとりくみをもとに、2016年度（平成28年度）から、各市町村のバランスを考慮しながら、ブロック会員を「ひと的整備」「ものの整備」

「かね的整備」に班員分けし、研修をすすめています。各グループの活動が、個人や市町村にフィードバックされるようにしています。

《「ひと的整備」グループ》

「ひと的整備」グループでは、「提案の文書化」を意識しながら、各学校で教職員・保護者に発行した通知文書を集約し、交流しています。夏季休業中には、『ひと的整備グループ研修会』を開催し、班員以外にも声をかけ、実践を提供していただき、研修しました。交流した実践一覧は、添付資料をご覧ください。

2016年度（平成28年度）は、多くの実践が集まり、1つ1つについて意見交換を行いました。学校や事務職員によって、伝え方や知らせ方、やり方に違いがあり、ほかの実践をみることで、見落としていたことや新しい方法に気付くことができ、たくさんの方の発見がありました。特に、経験年数の少ない事務職員にとっては、勉強になることが多く、今後は先輩事務職員の実践をヒントに実践することができるので、研修会で得たものは、大きな財産になりました。

そこで、2017年度（平成29年度）は、「新採用者に文書を提供しよう！」がテーマの研修会を開催しました。新採用者のために、先輩事務職員が事務だよりや提案文書の提供をつうじて、これからの仕事のアドバイスにつなげるようにしました。この研修をとおして、新採用者の不安を解消することができました。

また、10月に開催された、名寄・士別合同ブロック研修会では、名寄ブロックの会員からも文書を提供していただき、参加中23校の学校で、どのように内容を伝えているかを交流することができました。参加人数が増えることで、意見交流も活性化し、他校で工夫・実践していることを勉強することもできたので、有意義な研修となりました。

《「もの的整備」グループ》

「もの的整備」グループでは、2015年度（平成27年度）に「子どもアンケート」を実施した学校に着目し、アンケートをとおして子どもたちの声を拾い上げるとともに、その過程における様々な成果や課題について、今後の「学校づくり」に活かしていくようにとりくみを進めました。

2016年度（平成28年度）の活動計画作成のなかで、S小学校とA中学校の「子どもアンケート」の実践が話題になりました。そのなかで次のようなことがみえてきました。

「子どもアンケート」の結果を児童生徒・保護者に伝える。（⇒ひと的整備）

「子どもアンケート」の結果を予算要望に活かしている。（⇒かね的整備）

このように「子どもアンケート」の実践が「もの的整備」だけではなく、「ひと的整備」「かね的整備」にも関連していることがわかりました。そのため、この2校には、継続して「子どもアンケート」を実施してもらうほか、「ひと的整備」「かね的整備」との関連を具体的に示すために、各校の「もの的整備」に関わる実践もあわせて収集しました。

S小学校では、はじめての実践で不安もあったことから、2015年度（平成27年度）は、アンケート対象を6年生に絞っていましたが、アンケート結果から校舎営繕や予算要望に活かせる情報が寄せられたことから、子どもの視点となるアンケートの必要性を強く感じ、2016年度（平成28年度）には、対象を5・6年生に拡大しました。A中学校は、全校生徒30人以下の小規模校のため、継続し、全校生徒を対象に実施しました。また、K中学校では、校内安全点検の一部を、生徒会活動と関連付けて、教室などの安全点検を行いました。

「もの的整備」の各校の実践例については、2016年度（平成28年度）のとりくみから、2017年度（平成29年度）は、記録化し、次年度以降につなげていきました。また、教職員や児童生徒、保護者も巻き込むことを理想として活動しました。

《「かね的整備」グループ》

「かね的整備」グループでは、「保護者負担金」をテーマに設定して、とりくみを進めてきました。

2016年度（平成28年度）は、各学校の保護者負担金、各市町村の就学援助の支給状況リストを調べて、「保護者負担金」の現状を把握するとりくみを行いました。保護者負担金リストの作成にあたり、「校内担当者」に確認して、はじめて状況を把握することができた。」など、事務職員がしていない保護者負担があることがわかりました。作成した各校の保護者負担金リストや各市町村の就学援助の支給状況リストをについて交流し、「これまで、各市町村の小中学校数が少ないため、比較できなかったが、今回はじめて自校の保護者負担金について、理解することができた。」「就学援助制度で支給されている金額以上に保護者負担をしている現状があるため、改めて保護者負担軽減にとりくむ必要がある。」「保護者負担軽減にとりくむには、教職員へのアピールも必要ではないか。」などの意見がありました。

そこで、2017年度（平成29年度）は、保護者負担軽減について、とりくみを進めることにしました。まず、ブロック会員に保護者負担軽減への意識や実践についてのアンケートを行いました。「アンケートに回答するために、雑談中に教職員に聞いたところ、特に公費、私費の話題で盛り上がった」など、教職員と保護者負担について交流する機会にもなりました。アンケート結果から、①保護者負担についての関心が高い。②保護者負担軽減のとりくみをしたいが、具体的にどうしたらよいかわからない事務職員もいる。（経験年数の少ない事務職員など）③保護者負担軽減のとりくみをしている学校は、管理職や教職員の意識が高い。④保護者負担軽減のとりくみは、教職員と連携しなければならない。これらの4点がわかりました。

保護者負担軽減のとりくみについては、教職員と連携した学校全体のとりくみとしなければならないため、教職員にも保護者負担軽減を意識してもらうことが必要です。

これからのとりくみとして、職員会議でPFシートを活用した提案を実践し、効果などを検証していくなかで、保護者負担軽減へのとりくみについて検討していきます。

（2）各市町村のとりくみ

土別市

土別市は、2017年度（平成29年度）現在、正規採用職員8名（新採用2名）、期限付き職員5名（図書加配1名）、再任用職員1名の配置となっており、土別市教育研究会学校事務班を母体に、月に1回程度の研修会を開催し、各校の課題を共有し、実践しています。上事協研修部から提示されている「教育環境整備」および「ひと的整備」「もの的整備」「かね的整備」の視点をもとに、現在、13校中13校が、二本立て運営計画のとりくみを行っています。

土別市における、とりくみとしては、各校の課題を交流し、共有化できる課題を絞り、解決方法を模索するために、「メモの記録化」を継続し、各校の日常実践交流をとおして資質向上をはかります。また、「教育予算懇談会」を開催することで、市教委と連携し、学校の課題について協議するほか、土別市全体の教育予算についても、双方で共通理解をはかることができます。

今後の課題としては、管理備品（印刷機・コピー機・芝刈機・刈払機・除雪機）の整備と、学校トイレの完全洋式化について、各校で交流し、市教委と協議をしていきます。

幌加内町

幌加内町は、2017年度（平成29年度）現在、小学校2校、中学校1校で、事務職員は、小学校1名、中学校1名の2名が配置されています。2016年度（平成28年度）の10月に「幌加内町学校財政連携会議」（以下、連携会議という）を発足し、事務職員2名、事務職員未配置校教職員1名（教頭など）、町教委職員1名（課長）の4名で、連携会議を行い、町内の各校や町教委と交流を深めることができました。

連携会議の活動をすることで、各校と町教委の壁がとり払われ、各校の現状や課題を共

通認識することができました。具体的には、次年度の予算要求の交流や月末統計の様式変更の実施、出勤簿の押印廃止の要望をあげることができました。また、連携会議の会議記録を作成することで、各校の教職員や町教委職員に認知させることができました。今後の課題としては、事務職員未配置校教職員の出席者次第によって、会議の日程調整が困難になり、活動が停滞してしまう可能性があることです。

今後も可能な限り、連携会議を開催し、各校や町教委と課題の共有化ができるように努めていきます。

4 まとめ

士別ブロックでは、上事協のブロック実践を中心に、課題解消に向け、とりくんできました。ブロック会員を「ひと的整備」「もの的整備」「かね的整備」に班員分けした、グループ研修を進めることで、各グループの活動が、個人や各市町村にフィードバックされ、各市町村におけるブロック実践の『ばらつき』の解消へと役立ったと思います。

また、学校間連携の設立についても、幌加内町で連携会議が発足されたことで、町内の各学校および町教委と交流を深め、現状把握や課題についても共通認識することができました。

一方、学校間連携会議の設立に向けて、他市町においても、とりくみを推進する必要があります。士別ブロックでは、市町村教委との連携をとおして、多くの課題を共有し、解決してきた経緯があるため、今後も市町村教委との連携を強化していきたいです。

そして、新採用・ミッション加配などの増加に伴う、会員の経験年数の低下などによる組織構成の課題もあります。士別ブロックには、2014年度（平成26年度）に2名、2016年度（平成28年度）に1名、2017年度（平成29年度）にも、2名の新採用者が配置されています。また、ブロックにおける上事協の組織率も低下している問題もあるため、より連携を強化するほか、課題解決のために、学校間連携会議やグループ研修などを最大限活用し、さらなるとりくみの底上げをはかるこ

とが重要だと考えています。